

# ゼミ雑誌とは？

文芸学科では、年に一回、「文芸研究(ゼミ)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業のなかで「ゼミ雑誌」を制作します。内容は、小説や評論、詩歌などゼミによって異なります。企画や執筆はもちろんのこと、編集作業や印刷会社とのやりとりも学生主体でおこなうため、実際の本づくりと同じプロセスを体験できます。文芸学科では毎年、30～40種類のゼミ雑誌を発行しています。

出来上がったゼミ雑誌はキャンパス内の文芸ラウンジ、学部図書館などに常設されており、配布もおこなっています。また、日芸祭などのイベントの際には、学外の方にもご自由にお持ち帰りいただけます。

## 前期 (5月～7月) 企画

ゼミ雑誌作成委員(例年、ゼミで2名ほど選出)を中心に、雑誌のコンセプトや企画内容について話し合います。同時に雑誌の判型や綴じ方、ページ数を相談し、表紙や本文のレイアウトまで具体的に練り上げます。ゼミ内で執筆を分担し、それぞれの執筆枚数、ページ数がおおかた決定したところで、各自の作品制作へと入っていきます。

## 夏休み (8月～9月) 執筆

納品予定日や入稿予定日、編集にかかる時間から逆算して原稿の締め切りを設定し、執筆にとりかかります。ゼミによっては、ゼミ合宿中に雑誌内の企画について話し合ったり、作品を持ち寄って合評をして意見交換をすることもあります。

## 10月～11月 編集

印刷会社と直接連絡をとり、印刷・製本に向けて編集作業を進めていきます。印刷会社に雑誌の仕様を伝え、見積書を作成していただくなど、雑誌制作に関する一連のやりとりを経験することができます。編集作業については、Adobe Indesign や Microsoft Word などを使って、学生みずから誌面を作成するゼミも多く見られます。ゼミ内で校正を繰り返し、作品内の誤字脱字や目次・奥付の情報に誤りがないか念入りに確認したのち、印刷会社にデータを入稿します。

## 12月上旬 完成

出来上がったゼミ雑誌が文芸学科に納品され次第、文芸学科事務室で簡単な手続きを済ませます。これでゼミ雑誌の制作は終了です。ゼミ雑誌は文芸ラウンジのゼミ雑誌ラックに常設し、閲覧はもちろんのこと、配布もおこなっています。日芸祭などのイベントの際には、学外の方にもお持ち帰りいただけます。